# 第6回薄川流域協議会　要旨

日時：平成１５年１２月１８日（木）　18:30 ～20:55
場所：長野県松本勤労者福祉センター　１階　大会議室

## 次　第

1　開　会　　（座長あいさつ）
2　自己紹介
3　議　事
　・座長代理の指名
　(1) 第5回協議会会議録
　(2) 会員からの資料請求
　(3) 薄川の治水対策に対する意見交換

## 資　料

| | |
|---|---|
| 栄橋の断面比較図 | 資料－17 |
| 流域森林の変遷調査 | 資料－18 |
| 新河川法の概要 | 資料－19 |
| 薄川の治水対策に対する意見 | 資料－20 |
| 第５回会議録 | |

※資料は奈良井川改良事務所、松本合同庁舎行政情報コーナー、松本市役所、里山辺出張所で縦覧できます。

## 会員数

会員数　４６名　（出席会員数　２２名）

## 内　容

1　座長代理に、田口康夫さんが指名されました。
2　第5回協議会の会議録の内容について確認し、奈良井川改良事務所のホームページで公表することになりました。
3　前回会員から請求のありました資料について、事務局から資料１７～１９により説明を受けました。
4　前回の現地調査に伴う会員からの感想や意見の取りとまめを、事務局から資料２０により説明を受けました。
5　現地調査に伴う討議を、資料２０をもとに行いました。
6　次回の第７回は、事務局からの原案の提示を受け、2月上旬に開催することになりました。

**質疑･会員からの意見（前回の請求資料に対する説明に関して）**

〔質問〕　資料１７についてですが、浚渫の回数と浚渫土砂量は分かりますか。

〔回答〕　平成１０年以前の数字は把握しておりません。土砂量は栄橋付近では、10年が2、２００m3、12年が3、５００m3となっております。。

〔意見〕　今後お出しいただく資料では、河川の全体が分かる資料を実測に基づいたもので、小出しでなくまとめて出してもらいたい。

〔質問〕　栄橋周辺に土砂が堆積しやすいことは分かりますが、どの辺の土砂が移動してきているのか分かっているのですか。帯工が落差工に変わってきている、山の土砂でなく河床に堆積していた土砂が移動したのではないか。

〔回答〕　土砂の移動については、観測はしておりません。帯工が落差工に変わったという現象を見る限りでは、全体に下がっているとも考えられますが。

〔質問〕　原案の提示が遅れた理由を分かりやすく説明して頂きたい。

〔回答〕　応札して契約手続きまで進めていた業者が、公正取引委員会から排除勧告を受けたため、もう一度入札をすることになり遅れました。

〔意見〕　基本高水と現状の流下能力を比較検討する必要がある。下流では水が溢れることもなく流れている。それから、奈良井川の方へ以前より河床が下がっていることを考えると、実際の流速はもっと早く、もっと多い量が流れているのではないか。そうであれば、環境という新しい河川法の考えも入れやすいのでは。

**薄川の治水対策に対する意見（資料－２0を基に）**

〔意見〕　河川改修を先に考えた場合、超過洪水で被害を最小限に抑えるには、どこで溢れさせるかの議論になってくる。その時に河川改修の中に高さが低い部分を入れなければいけなくなる、そう言うことを含めて議論していく必要があるのでは。

〔意見〕　薄川の特徴は急流であり、下流田川合流点が狭いこと。戦前、戦後7回の洪水被害を被っている。大仏ダム予定地下流への砂防ダムの建設と舟付上流の土砂の排除が必要

〔意見〕　河川改修を先行して議論するにしても、流域対策も併せて考えてほしい。他の流域との意見交換を提案したい。

〔意見〕　Ａ区間での拡幅について、大変だと感じた人が多い。上流で貯水地や遊水池にしてよい土地があれば、下流で拡幅をしなくても良いのではないか。

〔意見〕　複断面を今後作らないと言う意見は分かりますが、今ある複断面を撤去してほしいと言う意見には賛成できません。これを撤去する工事は無駄である。現在ある複断面は残すべきである。

〔意見〕　河川改修を優先するとしても、拡幅だけでなく溢れることを前提とする事もあると思うので、河川の実状を把握して検討すべきである。

〔意見〕　山からの土砂が減っていることや、下流のためにはある程度の土砂を流すためには、砂防ダムは必要ないと思う。複断面は悪いとは思わないが、遊砂地的な場所をつくってほしい。またもう少し低くしても良いのでは。立木についても、魚の餌のことも考え環境と治水のギリギリの接点を探してほしい。

〔意見〕　土砂を溜めることは良いと思います。そのためには、落差工を嵩上げしたり立木を残すようにする。

・横山昭吉会員からの提案「災害は忘れた頃にやってくる」に対しての意見

〔意見〕　私はこの提案に賛成です。雨の降り方によっては、土砂や立木により自然ダムを造り鉄砲水を発生させる。これを防ぐためのダムや堰堤が必要。

〔意見〕　土砂の量が減っており、土砂の発生源や供給量が分からない状況では、有効か疑問である。立木に関しては河床に生えた木が下流に流れることもある。扉ダムもそれほど堆砂していない、砂防ダムを造っても安全になるとは思えない。

・野原繁美会員からの提案「治水に関する測定ｼｽﾃﾑ構築について」に対しての意見

〔提案者〕合理的な議論を行うためには実測をおこなう必要がある。

〔意見〕　提案通りでお願いしたい。出来れば避難の伝達方法を入れてもらいたい。

〔意見〕　この中で過去に下流が溢れなかったと書かれているが、これについては上流で溢れたために下流は被害が無かった。森林ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟで上流に雨量計をおいて、5年位いかけて調べている。そういう事を考えれば測定を充実させる必要はある。

## 会員からの資料請求等

・扉ダムでの堆砂状況に関するデータ

・簡易水道から上水道に代わったことにより、河川流量が増えている資料

・複断面施工の経緯